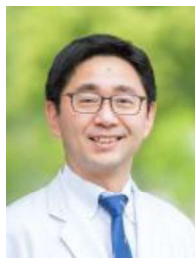




診療科動画



診療科HP



## 1. スタッフ

診療科長 (教授) さかがみ たくろう 坂上 拓郎  
 准教授 1名、講師 1名、  
 特任講師 1名、助教 3名、  
 特任助教 6名  
 医員 11名

## 2. 診療科の特徴、診療内容

呼吸器内科は、咳、痰、息切れ、喘鳴、血痰、胸痛、いびきなどの呼吸器症状のある症例や胸部レントゲン・CT 検査で異常陰影を指摘された症例の診断や治療を、各々の専門領域の医師が行っている。

喘息、慢性咳嗽、慢性閉塞性肺疾患(COPD)は、呼吸機能検査、喀痰検査などから病態を評価し患者に応じた治療を主に外来で行い、患者教育・指導に力を入れている。肺癌では、早期診断症例の呼吸器外科への紹介、進行例では分子標的治療や免疫チェックポイント阻害剤などを含めて最新の抗癌化学療法を実施するとともに外来化学療法も積極的に行っている。また多くの多施設共同臨床試験、医師主導治験に参加し、最新のエビデンス確立に貢献している。びまん性肺疾患は、気管支鏡検査、気管支肺胞洗浄、外科的肺生検により診断と治療方針を決定し、急性期から慢性期疾患に対して最新の治療を行っている。さらに当院 ICU ヘスタッフを派遣し重症呼吸不全の呼吸管理に積極的に関わっている。稀少疾患の診断・治療を積極的に行っており、特に自己免疫性肺胞蛋白症の治療は九州各県から患者を受け入れ診断、治療にあたっている。

## 3. 診療体制

### ○外来診療体制

月5診、火6診、水6診、金6診の初診・再診・専門外来、及び木1診の週24診で外来診療を行っている。各々の専門領域の診療を各医師が行っている。専門外来として金曜日に喘息外来を設置し、主に生物学的製剤を必要とする重症喘息の管理を行っている。他病院からのセカンドオピニオンも積極的に受け入れている。2024年度の初診外来患者数は1,014名、再診外来患者数は14,869名の診療を行なった。

### ○病棟診療体制

科長、病棟医長・副医長の指導のもと、病棟チーム制による診療を行っている。毎週火曜日に症例検討会及び呼吸器外科や放射線治療科との合同カンファレンス、木曜日午前中に科長回診を行っている。また各チーム内で連日チームカンファレンスを行い、症例ディスカッション、情報共有を行うことで、診療の質向上、業務の効率化を図っている。気管支内視鏡検査前後に全症例カンファレンスを行い、検査の質向上と若手の教育に努めてい

る。多職種に参加した緩和ケアチーム (PCT)、呼吸サポートチーム (RST) も活動している。

## 4. 診療実績

### ○疾患別の患者数：

2024年度入院患者疾患別一覧 (計1,177名)

肺癌	693名
縦隔腫瘍・胸膜中皮腫	46名
間質性肺疾患・膠原病関連	225名
細菌性肺炎	40名
肺結核・非結核性抗酸菌症	10名
その他の呼吸器感染症 (肺真菌症など)	41名
気胸	12名
喘息・COPD・その他のアレルギー疾患	31名
心血管系疾患	10名
その他	69名

### ○主要な疾患の治療実績 (成績)

2024年度の抗がん剤治療は計1,241件(入院377件、外来864件)を行った。間質性肺炎・肺線維症では免疫抑制剤、呼吸管理、ポリミキシンB固定化繊維カラムによる血液浄化療法(PMX-DHP)、新規抗線維化剤などにより治療・改善あるいは病勢のコントロールに努めている。また、内科的治療に不応性の慢性進行性呼吸器疾患(間質性肺炎、閉塞性細気管支炎、肺LAM症など)では国内の移植施設と連携して肺移植適応を検討している。喘息難治症例に対しては、抗IgE抗体や抗IL-5受容体抗体などの生物学的製剤を用いた治療により病勢コントロールを目指している。在宅酸素療法、在宅人工呼吸導入も積極的に行っている。

### ○検査の実績等

2024年度は、肺癌・間質性肺炎・胸部異常陰影の診断目的を中心に、330件の気管支内視鏡検査が施行された。超音波気管支内視鏡下針生検(EBUS-TBNA)、ガイドシース併用気管支内腔超音波診断法を(EBUS-GS)施行し、良・悪性疾患の診断、手術適応の決定に実績を上げている。また、放射線診断科との協力によりCTガイド下肺生検を行い高い診断率を達成している。

## 5. 高度先進的な医療の取組

急性呼吸窮迫症候群(ARDS)・間質性肺炎急性増悪に対するPMX-DHP療法を倫理申請し、治療効果を前向きに検討している。また間質性肺炎に対する積極的な外科的肺生検施行とmulti-disciplinary discussion (MDD)による診断、肺癌の遺伝子診断や分子病理診断において、臨床的、基礎的研究を進めている。

## 6. 臨床試験・治験の取組

2024年度には、22件の多施設共同の臨床試験・治験に参加し、良好な達成率で実施している。また、これらの研究成果は、日本内科学会、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本結核病学会、日本臨床腫瘍学会、日本集中治療医学会、日本肺癌学会、日本癌治療学会、日本集中治療医学会などの国内基幹学会(計36件)及び、European Respiratory Society Annual Congress, Antigen Processing and Presentation Workshopなどの国際学会(計3件)で発表報告した。

## 7. 地域医療への貢献

呼吸器疾患についての研究会・講演会を熊本県内各地で実施し、最新の医療情報を提供すると共に、呼吸器疾患のみならず様々な分野との交流を図り、呼吸器疾患診療の均てん化を目指している。また、他の医療機関より紹介を受けた重症例に対し、他診療科との連携により高度医療を提供すると共に、公的病院への医師の紹介・派遣・外来支援など地域医療機関との円滑な連携・協力を努めている。

## 8. 医療人教育の取組

日本内科学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本臨床腫瘍学会、日本アレルギー学会、日本感染症学会、日本がん治療認定医機構の認定あるいは研修・教育施設であり、若手医師育成に力を注いでいる。また、若手医師、研修医、医学生を対象にした「呼吸器内科塾」を企画開催し、呼吸器診療のレベルアップを図っている。また呼吸器内科地域連携呼吸器セミナーを企画し、地域の呼吸器診療の質向上のために取り組んでいる。

## 9. 研究活動

医学的、社会的に重要な呼吸器疾患の問題点を臨床研究及び基礎研究により解決し、診断と治療に還元することを目的としている。肺癌、びまん性肺疾患、喘息・COPD、感染症、希少疾患など様々な分野で「bench-to bedside」を念頭に研究を行なっている。

### I. 喘息・COPD :

1. 生物学的製剤使用の難治性喘息の実態調査と治療効果の解析、2. 気管支喘息患者に対するLAMA投与に関する後方視的解析、3. 重症喘息における臨床的寛解に関する多施設共同研究、4. 生物学的製剤使用の難治性喘息の粘液栓に関するCT画像解析を用いた前向きコホート研究

### II. 抗サイトカイン抗体と希少呼吸器疾患に関する研究 :

1. 抗IFN $\gamma$ 自己抗体、抗IL-6自己抗体、抗GM-CSF自己抗体のスクリーニング系を用いて希少呼吸器疾患、宿主免疫との関連を検討、2. 肺胞蛋白症の病態、治療における免疫細胞機能解、3. 自己免疫性肺胞蛋白症に対するGM-CSF吸入の臨床応用と劇症型に関する臨床研究、

4. 自己免疫性肺胞蛋白症に対するBiphasic cuirass ventilator : BCV) 併用下での全肺洗浄の有効性、安全性の検討、5. 肺胞蛋白症に対するIntrapulmonary percussive ventilation (IPV) の有効性の検討、6. 自己免疫性肺胞蛋白症に対する電子麻酔記録をもちいた全肺洗浄下の酸素化動態の解明と体位に関する後方視的解析、7. 自己免疫性肺胞蛋白症におけるGM-CSF吸入治療後の長期予後観察研究、8. 成人発症免疫不全症の疾患レジストリ・検体レポジトリの構築と前向き観察研究

### III. 肺癌 :

1. 口腔内・腸内細菌叢が及ぼす癌治療効果促進・抑制・治療耐性誘導メカニズムの解明、2. 腸内細菌を標的とした新規肺癌治療の開発、3. 肺癌における4 meter歩行試験と予後との関連の検討、4. 原発巣のSUVmaxを用いたEGFR遺伝子変異陽性肺癌に対するオシメルチニブの治療効果予測、5. 腫瘍微小血管がEGFR遺伝子変異陽性肺癌に対するEGFR-TKIの治療効果に及ぼす影響の解析、6. 非小細胞肺癌患者に免疫チェックポイント阻害薬の治療効果に影響する食生活に関する研究、7. 間質性肺炎合併肺癌患者における急性増悪の予測としてのFDG-PET-CT検査の有用性とそのメカニズムの解明

### IV. びまん性肺疾患・間質性肺炎疾患・急性肺損傷に関する研究 :

1. 3次元イメージングを用いた肺線維化過程における血管・神経ダイナミクスの解明、2. 肺の線維化と腸肺軸の関連性に関する研究、3. シリカ関連呼吸器疾患の病態解明、4. 抗線維化薬の治療効果予測因子の探究・長期投与例の解析、5. 早期IPFに対するNintedanib治療の有効性の検討、6. 膠原病関連ILDにおけるマクロファージの機能的変化と発症機序の解明、7. 抗MDA-5抗体陽性間質性肺炎発症・進行に関する機能病態解析、8. 健診発見のInterstitial lung abnormalityの疫学および観察レジストリー研究

### V. 呼吸器感染症に関する研究 :

1. 非結核性抗酸菌感染症の感染発症の機序解明と感染進行・治療抵抗性関連バイオマーカーの同定、2. 播種性非結核性抗酸菌症における抗IFN $\gamma$ 自己抗体の意義、3. 肺ノカルジア症の適切な初期治療法の開発、4. 肺NTM症における宿主免疫応答の解明、5. 深在性真菌症における血清診断補助マーカーの解析、6. SARS-CoV2感染症に対する細胞性免疫応答の解明、熊本県下のCOVID-19感染重症患者の疫学調査及び観察研究